

ら堅町へ出る道路をいふ。この小路の西角に春田鍛冶と稱するもの、數代居住してゐたからこの名がある。

**ハルタワカミコジンジャ** 治田若御子神社文徳實錄に『天安元年九月壬寅在加賀國正六位上治田若御子神授從五位下』と載せる神である。それを式内等舊社記に『治田若御子神社。國史記載社也。極樂寺村(江沼郡)鎮座。今稱之爲之。極樂寺村舊名畑村。蓋有異説』と記してゐるが、その異説がいかなるものであるかはわからぬ。又神名帳考證には、治田若御子神と國史に見えるのは、延喜式神名帳の江沼郡氣多御子神社の謬であらうとの説を掲げ、文政社號帳には能美郡岩内村の氣多神社が治田若御子神社であることを主張してゐるが、何れも適切であるとは思はれぬ。

或は加賀郡(後石川郡)大野郷に治田の地名があつたから、それと交渉するものかも知れぬ。

**ハルノキ** 春木 石川郡明島内の小字。

**ハルノボウ** 春之坊 金澤の俳人。傳は詳かでない。百鶴園四代を繼席した。

**ハルノモノ** はるのもの 一冊。金澤の俳人眉山編。文化五年京勝田善助板。眉山の門下及び金澤の風友の句を輯めた春帖である。同六年にも亦春のもの一冊があり、同じく勝田善助板である。

**ハルノヨ** 春邊夜 金澤の俳人麥水が明和七年春出版した俳句集で、附合と春興及び文通の發句とが載せられ、二竹が跋を書いてゐる。麥水の主張する虛栗調の作を初めて世に問うたものである。出版者は書いてない。板下は麥水の自筆である。

**ハルミチツラキ** 春道列樹 醍醐天皇昌泰

三年三月春道列樹、文章生を以て能登國守となつた。列樹は詩賦の才を兼ねて和歌に秀でた人であつた。

**ハルヲ** 春雄 金澤の俳人。通稱越中屋久七。松裏庵五代を襲いだが、その傳は詳かでない。

**ハレガサ** 晴笠 ↓リヨソウ 旅装。

**ハレバレン** 露々志 一冊。天保十二年流行金藏板。大坂の反古庵天來は貞徳の流を汲むものであつたが、梅室の俳風を壓倒せんが爲、俳諧七草を著して之を攻撃した。因つてこの書を出して、貞門と蕉門との相違を辨解したものである。編者は加陽流行舎とあるが、岡より何人かの匿名である。

**ハンオウ** 鑿懸 ↓リヨウザンハンオウ 眞山緊懸。

**ハンオウ** 伴翁 三童記に前田利長薨去の時、伴翁の次師雲堯が導師を勤めたとある。伴翁は寶圓寺四代眞山緊懸の限である。

**ハンカイコウ** はんくわい講 文字は詳かでない。藩政の頃、鹿島郡にて降雪の終りたる時、青年等米・小豆等を對し、餅を搗きながらして小宴を催し、餅おろしを祝するをいうた。

**ハンカイチクゼン** 獎勵筑前 豊臣秀吉が四月八日附を以て前田利家に與へた消息に、宛名をはんくわいちくぜん殿としたものがある。利家の勇武を獎勵に比したもので、これは天正十九年のものなるべく、書中に『又此たびもそのほうひだりのうでとしわかやぎ可申候。』とあるのは、征明の役を起すに就いて、利家の助力を求めたものと解せられる。

**パンガシラ** 番頭 御馬廻御番頭・大小將

御番頭・表小將御番頭・奥小將御番頭・定番御馬廻御番頭・組外御番頭・小松御馬廻御番頭などがあつた。御馬廻御番頭は御馬廻頭に、大將御番頭は御小將頭に、定番御馬廻御番頭は定番頭に屬するが、その他の御番頭は組頭を藏かなかつた。

**ハンケボウクシユウ** 半化坊句集 二冊。車蓋編。天明七年京菱屋孫兵衛・菊屋太兵衛板。金澤の俳人半化坊剛更が洛陽東山に芭蕉堂を營んでから、門人たる編者が師の舊吟を拾うて一冊子としたものである。序は天明丙午春四山亭齋水、跋は亨々坊車蓋。

**ハンコウサンキンキ** 藩公參勤記 一冊。一名御參勤帳。前田綱紀が寛文元年七月入部してから以後歴代の參勤・歸國の年月日等を、順序に記したものである。

**ハンコクカンシヨクツウコウ** 藩國官職通考 六卷。湯淺祇庸著。加賀藩諸士役儀の起源・沿革・役名の濫觴等を諸記録に徴して詳記したものである。七卷のものは前記の稿本である。

**ハンコクケンブンロク** 藩國見聞録 一冊。大聖寺藩士與村永世著。巻首に窩嶽山人編集とあり、巻尾には『弘化二乙巳曆初春山代在湯中編集之者也。與村永世藏』とある。大聖寺藩領内の地誌・神社佛閣記、同藩士の書いた旅行記、及び諸家碑銘等が集められてゐる。

**ハンコクシヨシゲンコウロク** 藩國諸士言行錄 湯淺祇庸著。前田利家以降綱紀の時までの藩士の嘉言善行を編輯せんとして、未完成に終つたものである。

**ハンコホリ** 半郡 天正八年長連龍が織田信長から、鹿島郡の半、即ち二宮川以西五十

九ヶ村を賜はつたるより、その部分を半郡と

いひ、半郡百姓又は半郡代官等の語が使用せられた。半郡は又新郡とも先郡ともいうた。その五十九ヶ村とは、酒井・四柳・大町・小金森・高島・福田・藤井・小田中・久江・小竹・水白・井田・芹川・徳前・鹿島路・金丸・金丸出・上曾根・下曾根・能登郡下・徳丸・上良川・東馬場・西馬場・最勝講・黒氏・一青末坂・羽坂・春木・大槻・瀬戸・花見月・三階・町屋・淵井・伊久留・下・杉森・高田・田鶴濱・川尻・新屋・垣吉・吉田・七原・三引・白濱・深見・大津・鹽津・笠師・筆染・奥吉田・河崎・豊田・豊田町・土川である。又前述から引用せられて、半郡が鹿島郡を指すこともあつた。例へば奥郡の者は、鹿島郡の者を指して半郡の人といふ如きは是である。

**ハンザキ** 半崎 珠洲郡白丸と四方丸との中間なる細長の地域である。古へは飯崎と書いた。

**ハンサザカ** 檜坂 能美郡舊市、瀬温泉から白山への登路中梯子坂の上に在る標高九五〇米許の急坂をいふ。ハンサとはオホミネバリの方言で、アツサから轉じたのであらうといはれる。

**ハンサツ** 藩札 ↓ギンサツ 銀札。ゼンサツ 錢札。

**ハンサンシコウ** 半山詩稿 一冊。加賀毛利彦士美の著。天保十四年の序がある。

**ハンシチヨウ** 半紙帳 ↓ブイリ 歩入。

**ハンジヨウカクチ** 番匠垣内 石川郡中奥郷に屬する部落。

**ハンシヨウシユンジュウ** 萬松春秋 一冊。天文元年から弘化四年に至る加賀藩の年表で、上段横に年號年數を並べ、各行下に其の年の重大事件を簡明に記入したものである。天保四